

2-3 満足度の高い学校への訪問調査

(1) 訪問校の選定にあたって

まず設問 15「総合学科を選択したことについて、いまのあなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選んで下さい」を生徒の総合学科の学びに対する満足度を表す指標とした。アンケートの対象は3年次生であるから、「総合学科を選択したこと」という質問においても自らの高校生活全体を振り返っての気持ちも回答結果には影響を及ぼしていると推察される。ただ「産業社会と人間」や多くの体験活動、科目選択など「総合学科だからこそおこなわれること」は生徒の意識に強く印象づけられているものである。他の学科を体験できない生徒にとって普通科や職業学科の学びと総合学科を比較することはできない。しかし、総合学科ならではの活動という機会に数多く触れる中で、自分にとってその学びはよかったのか、または普通科や職業学科に進学していた方が自分にとってより広い展望がひらけていたのかもしれないと思うのか、「総合学科を選択したこと」という設問に対する回答には生徒の総合学科に対する直感的で正直な気持ちが表れているものと考えている。

設問 15 の全体の回答結果を図 2-3-1 に示す。調査結果を見ると、約 8 割の生徒が総合学科の学びに対して、肯定的な気持ちを持っていることがわかる。

Q15: 総合学科を選択したことについて、いまのあなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。(SA)

	回答数	%
全体	3703	100.0
1 全く満足していない	104	2.8
2 あまり満足していない	369	10.0
3 やや満足している	1844	49.8
4 とても満足している	1161	31.4
無回答	225	6.1

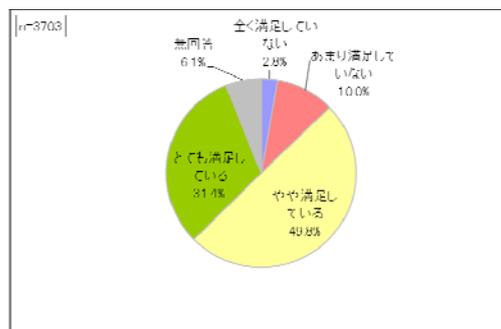


図 2-3-1 総合学科の学びに対する満足度

この設問について「とても満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「全く満足していない」の4件の回答を「とても満足している」「やや満足している」を肯定的回答、「あまり満足していない」「全く満足していない」を否定的回答としてまとめ、学校ごとの数値を比較した。この結果、総合学科高校での学びに対して生徒の満足度の高かった2校を訪問校とした。訪問校とした長野県塩尻志学館高等学校、愛媛県立川之石高等学校の設問 15 に対する回答結果を表 2-3-1 に示す。表中の全体の項は全体の集計結果からそれぞれ該当校の人数を除いた数(該当校を除いた30校の集計結果)である(以下同じ)。

両校とも総合学科の学びに対して満足度が高いことがわかる。また両校とも共通して表 2-3-2 に示した各設問について肯定的回答が多かった。その回答結果を表 2-2-2～表 2-3-5 に示す。各設問とも設問 15 と同じように4件の回答を「肯定的回答」と「否定的回答」にまとめている。

表 2-3-1 設問 15 塩尻志学館および愛媛川之石の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計		川之石	全体	合計
肯定的回答	109 94.8%	2896 86.1%	3005	肯定的回答	107 98.2%	2898 86.0%	3005
否定的回答	6 5.2%	467 13.9%	473	否定的回答	2 1.8%	471 14.0%	473
合計	115	3363	3478	合計	109	3369	3478

($\chi^2=7.1$, df=1, p<.01) ($\chi^2=13.3$, df=1, p<.01)

表 2-3-2 2校とも肯定的回答の多かった設問項目

設問 No	設問項目
6	科目を選択するとき、科目選択のためのガイダンスはどの程度、充実していましたか。あてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。
16.2	これまでの自分自身を振り返ってあなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び○で囲んで下さい。 ／自分の興味関心に応じた時間割をつくることができた
16.5	これまでの自分自身を振り返って、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び○で囲んで下さい。 ／真剣に、自分の将来と向き合うことができた。

表 2-3-3 設問 6 塩尻志学館および愛媛川之石の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計		愛媛川之石	全体	合計
肯定的回答	109 90.8%	2773 78.3%	2882	肯定的回答	104 93.7%	2778 78.2%	2882
否定的回答	11 9.2%	769 21.7%	780	否定的回答	7 6.3%	773 21.8%	780
合計	120	3542	3662	合計	111	3551	3662

($\chi^2=16.6$, df=1, p<.01) ($\chi^2=15.4$, df=1, p<.01)

表 2-3-4 設問 16.2 塩尻志学館および愛媛川之石の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計		愛媛川之石	全体	合計
肯定的回答	108 89.3%	2729 76.9%	2837	肯定的回答	103 92.8%	2734 76.9%	2837
否定的回答	13 10.7%	818 23.1%	831	否定的回答	8 7.2%	823 23.1%	831
合計	121	3547	3668	合計	111	3557	3668

($\chi^2=10.1$, df=1, p<.01) ($\chi^2=15.6$, df=1, p<.01)

表 2-3-5 設問 16.5 塩尻志学館および愛媛川之石の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計		愛媛川之石	全体	合計
肯定的回答	114 94.2%	2984 84.2%	3098	肯定的回答	108 97.3%	2990 84.2%	3098
否定的回答	7 5.8%	558 15.8%	565	否定的回答	3 2.7%	562 15.8%	565
合計	121	3542	3663	合計	111	3552	3663

($\chi^2=8.9$, df=1, p<.01) ($\chi^2=14.2$, df=1, p<.01)

次にこの2校を対象に他の学校とは異なった傾向が現れている点について検討した。塩尻志学館高校で特徴的な結果を得た設問項目と回答結果を表2-2-6～表2-2-10に示す。

設問1は「十分理解していた」「やや理解していた」を「理解あり」とし「あまり理解していなかった」「全く理解していなかった」を「理解なし」としてまとめた。設問2は「強く意識した」「やや意識した」を「意識あり」とし「あまり意識しなかった」「意識しなかった」を「意識なし」としてまとめた。設問3は「普通科に入りたかった」「専門学科に入りたかった」「どの学科でもよかった」を「その他」としてまとめた。設問16.6は「とても満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「全く満足していない」の4件の回答を「とても満足している」「やや満足している」を肯定的回答、「あまり満足していない」「全く満足していない」を否定的回答としてまとめた。

表 2-3-6 特徴的回答が見られた設問項目 (塩尻志学館高校)

設問 No	設問項目
1	高等学校を選択するとき「総合学科の高校」がどのような学校であるかどの程度理解していたと思いますか。あてはまる番号を1つ選び○で囲んで下さい。
3	高等学校を選択するとき「総合学科の高校であること」をどの程度意識しましたか。あてはまる番号を1つ選び○で囲んで下さい。
4	総合学科の高校に入学を決めたときあなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。
16.6	これまでの自分自身を振り返ってあなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び○で囲んで下さい。 ／自分の好きなことを見つけることができた。

表 2-3-7 設問 1 塩尻志学館の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計
理解あり	99 81.8%	2500 70.2%	2599
理解なし	22 18.2%	1061 29.8%	1083
合計	121	3561	3682

($\chi^2=7.6$, $df=1$, $p<.01$)

表 2-3-8 設問 3 塩尻志学館の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計
意識した	93 76.9%	1981 55.5%	2074
意識しなかった	28 23.1%	1591 44.5%	1619
合計	121	3572	3693

($\chi^2=21.8$, $df=1$, $p<.01$)

表 2-3-9 設問 4 塩尻志学館の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計
総合学科に入 学したかった	84 70.6%	1613 45.4%	1697
その他	35 29.4%	1937 54.6%	1972
合計	119	3550	3669

($\chi^2=29.3$, $df=1$, $p<.01$)

表 2-3-10 設問 16.6 塩尻志学館の回答結果

	塩尻志学館	全体	合計
肯定的回答	110 90.9%	2728 77.1%	2838
否定的回答	11 9.1%	809 22.9%	820
合計	121	3537	3658

($\chi^2=12.8$, $df=1$, $p<.01$)

次に愛媛川之石高校について特徴的な結果を得た設問項目と回答結果を表2-3-11～表2-3-15に示す。各設問とも「とても満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「全く満足していない」の4件の回答を「とても満足している」「やや満足している」を肯定的回答、「あまり満足していない」「全く満足していない」を否定的回答としてまとめた。

表 2-3-11 特徴的回答が見られた設問項目（愛媛川之石高校）

設問 No	設問項目
5.1	「産業社会と人間」についてあなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。／ 入学時よりも自分自身について見つめ直すことができた。
5.2	「産業社会と人間」についてあなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。／ 入学時よりもこれからの生き方を考えることができた。
5.4	「産業社会と人間」についてあなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。／ 入学時よりも働くことに対して意欲がわいた
16.4	これまでの自分自身を振り返ってあなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び○で囲んで下さい。 ／様々な体験活動を通じて幅広い視野を持つことができた。

表 2-3-12 設問 5.1 愛媛川之石の回答結果

	川之石	全体	合計
肯定的回答	98 88.3%	2747 76.7%	2845
否定的回答	13 11.7%	833 23.3%	846
合計	111	3580	3691

($\chi^2=8.1$, $df=1$, $p<.01$)

表 2-3-13 設問 5.2 愛媛川之石の回答結果

	川之石	全体	合計
肯定的回答	105 94.6%	2899 81.0%	3004
否定的回答	6 5.4%	681 19.0%	687
合計	111	3580	3691

($\chi^2=13.2$, $df=1$, $p<.01$)

表 2-3-14 設問 5.4 愛媛川之石の回答結果

	川之石	全体	合計
肯定的回答	102 91.9%	2789 78.1%	2891
否定的回答	9 8.1%	783 21.9%	792
合計	111	3572	3683

($\chi^2=12.2$, $df=1$, $p<.01$)

表 2-3-15 設問 16.4 愛媛川之石の回答結果

	川之石	全体	合計
肯定的回答	103 92.8%	2807 79.0%	2910
否定的回答	8 7.2%	748 21.0%	756
合計	111	3555	3666

($\chi^2=12.6$, $df=1$, $p<.01$)

訪問にあたっては2校とも共通して特徴的回答結果となった設問項目に関することを中心に、科目選択および科目選択にいたるまでのガイダンスに関すること、「産業社会と人間」などキャリア意識を高める取り組み、また教育課程、選択科目の置き方、普通科目と専門科目の配置方法等について調査することとした。加えて、それぞれの学校で特徴的回答が見られた次の項目についてそのような結果になった背景などを探ることとした。

○塩尻志学館高校

- ・入学する前から総合学科に対する理解を示す生徒が多いこと
- ・総合学科への進学を希望して入学する生徒が多いこと
- ・入学時の総合学科の学びに対する期待が3年間続き、その満足度も高いこと

○愛媛川之石高校

- ・「産業社会と人間」の授業を通して生徒の自己理解や職業理解が図られていること
- ・様々な体験活動が生徒の考え方を広げるきっかけとなっていること

(2) 長野県塩尻志学館高等学校の取り組み

塩尻志学館高校は2000年に長野県で最初の総合学科として開設された学校である。その前身は1911年に郡立乙種農学校として設立され2011年で創立100周年を迎える地域に根ざした歴史と伝統をもつ学校である。生徒数は各学年6クラス規模で約240名、全校生徒およそ700人である。女子が448名、男子が249名(平成22年度)と女子の在籍者数が多い。人文社会、自然科学、国際文化、芸術スポーツ、環境科学、食品科学、生活福祉、情報ビジネスの8つの系列をおいている。教育課程の枠組みを図2-3-2に示す。

塩尻志学館高校の特徴として、入学前から総合学科に興味・関心、理解のある生徒が多いということがアンケート調査の結果明らかとなった。これについて影響を与えていると考えられる学校の取り組みについて表2-3-16に示す。

中学校訪問は総合学科開設当初から10年来継続して進められているものである。この地道な活動によって近隣中学校教職員の総合学科に対する理解が少しずつ図られている。その理解は中学生にも伝わることになり、総合学科を志望する生徒の増加につながっていると考えられる。夏休みの公開授業も毎年数多くの中学生が来校しているとのことであった。またWebサイトを活用した広報活動も充実している。Web管理は教務部の担当でブログについてはほぼ毎日更新することを目指している。本年度から校内で毎月一回発行している保護者、生徒向けのキャリア教育に関する総合学科通信「CAREER」もアップされていて誰でも見るできるようになっている。この総合学科通信は1年次「産業社会と人間」、2年次「キャリアプランニング」、3年次「総合研究」についての予定や活動に対する生徒の感想、総合学科で学ぶための考え方や姿勢など総合学科のエッセンスがちりばめられたものである。Webにアップされているので塩尻志学館高校を志望する中学生やその保

7 教育課程の概要

1 年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	国語総合				地理A		現代社会		数学I			数A	理科総合B		生物I	
2 年 次	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	
	英語I				情報A		体育		保	芸術I		産社※1		HR		
3 年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	世界史A		家庭基礎		体育		保	総合・自由選択科目								
4 年 次	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	総合・自由選択科目 (20単位)												※2	HR		
5 年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
	体育		総合・自由選択科目													
6 年 次	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	総合・自由選択科目 (24単位)											※3	※4	HR		

- ※1 「産業社会と人間」(総合学科の原則履修科目)
- ※2 キャリア・プランニング(総合的な学習の時間)
- ※3 「総合研究」(総合的な学習の時間)
- ※4 キャリア・デザイン(総合的な学習の時間)

キャリア教育

図2-3-2 塩尻志学館高校の教育課程

表 2-3-16 塩尻志学館高校の外部への発信活動

項目	具体的取り組み内容
公開授業・体験入学の充実	年2回土曜日に公開授業を行う。夏休みに行う体験入学を魅力的なものにする。
中学校訪問の充実	近隣の中学に対して、前期は総合学科の特色・魅力についての説明、後期は入試システムの説明を行う。その中で卒業生の様子についても中学校ごとに具体的な実績を知らせて高校での教育成果や魅力を理解してもらう。
Web サイトの活用による積極的アピール	学習成果、部活動・生徒会活動など日々の様子や成果をタイムリーに発信する。ブログは毎日更新するよう努めアクセス数のアップを目指す。 進路実績の他、卒業後の様子なども可能な範囲で発信する。 学校教育計画などについても積極的に公開していく。
マスメディアの活用による積極的アピール	地域新聞、地域広報などを活用して機会あるごとに情報を発信する。
地元産業を取り入れた授業を行う	塩尻市の特産である「ワイン」を授業に取り入れている。実際にワインの醸造を行い生産したワインは塩尻高校ブランドとしてアピールしている。

(HP 掲載の平成 23 年度 学校教育計画 中間評価より抜粋)

護者は当然見ている。これを読むことで入学前から、総合学科とはどのような所なのか、入学後はどんな学習ができるのか、どのような考え方が大切なのかを理解することができる。マスメディアなどの活用を含め塩尻志学館高校では多くの場面で学校の活動を外部に発信し、教育活動の見える化を進めており、このような様々な活動が奏功し総合学科での学びに対して意識の高い生徒が入学してくるのではないかと考えられる。

次に塩尻志学館高校の時間割作成、科目選択についてその特徴をまとめる。塩尻志学館高校は必修科目および原則履修科目以外についてはすべて選択科目となっている（図 2-3-2 参照）。選択科目は原則として年次による区分はなく、系列、科目群による縛りもないオープンな科目選択が可能である。1年次に2年次の科目を、2年次に3年次の科目を選択する。当然2年次の選択科目を考える場合は2、3年次を通した履修計画を持って選択することになる。塩尻志学館高校の科目選択の流れを図 2-3-3 に示す。

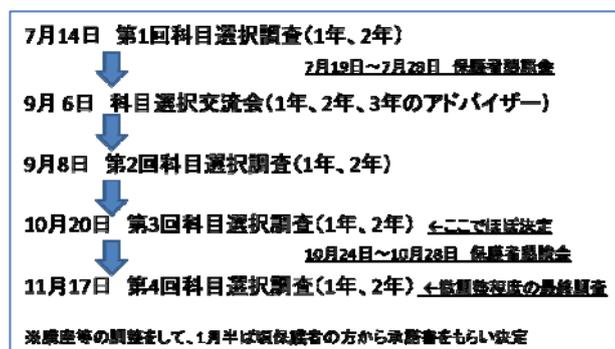


図 2-3-3 塩尻志学館高校の科目選択の流れ

図中の科目選択交流会とは科目選択について上級生から経験を直接聞いて自分の科目選

採の参考にするという活動である。1年次生は2年次生から、2年次生は1年次生に対するアドバイザーとなるのと同時に3年次生からの話を聞くことになっている。例年、上級生からのアドバイスはとても参考になるという意見が出る活動ということである。4回の科目調査と2回の保護者懇談、先輩から科目選択について学ぶ交流会など最終決定にいたるまで生徒は何度も自分の科目選択について考えることとなる。これが1年次だけでなく、2年次も繰り返して行われる。加えて、生徒一人一人の科目選択の情報は教員間で共有され、教科担当者などからのコメントが付けられた個人票として配布されることになっている。このような活動は単に科目選択を成功させるということではなく、生徒自身が将来を展望する大きなきっかけともなっているものと考えられる。

このほかにも塩尻志学館高校では「サポーターズシステム」という制度があり、生徒の学びや科目選択、進路相談を支援している。図2-3-4に「サポーターズシステム」について総合学科通信「CAREER」に掲載されている新入生向けの説明を示す。

活用しよう サポーターズシステム

本校には、「サポーターズシステム」があります。
 「サポーターズシステム」とは、科目選択や進路相談などを正副担任の先生方以外にも、自分が希望する系列の先生方や、相談をお願いしたい先生方をサポーターとして、総合学科生の学びをできるだけ個々に手厚く支援していきたいという願いから生まれたシステムです。書いてみれば先生方がひとつのチームとして、総合学科の君たち全員を応援していく仕組みです。門戸は開かれています。遠慮せず積極的に活用してください。



近日中に各クラスにサポーター職員一覧表が配布されます。

1年生	➡	自分が希望する系列を登録して、職員一覧表を参考に系列の先生などへ科目選択などの相談に行きましょう。
2年生	➡	職員一覧表を参考に、系列などの先生へ相談に行きましょう。
3年生	➡	自分が相談したい先生をサポーターとして登録し、(複数可)進路相談などに積極的に活用しましょう。

「サポーターズカード」も配られます。記録を取り、担任の先生に提出しよう。

図2-3-4 サポーターズシステムについて

教育課程においてはキャリア教育の柱として1年次「産業社会と人間」、2年次「キャリアプランニング」、3年次「総合研究」の3つが置かれていることも生徒の3年間の成長を見通した組織的な指導を行う上で欠かせないポイントであろう。

当校を訪問して強く感じたことは、教職員の方々が総合学科を理解し、言葉は適切でないかもしれないが総合学科で教えることを楽しんでいるように見えたことである。教職員一丸となってどうやったら総合学科の理念を実現できるか、常に前を向いて前進されている姿勢に心から頭が下がる思いを持った。今回対応いただいた先生の「生徒も教員も学校にプライドを持っている。学校が好きなんですよ。」という言葉が塩尻志学館高校を象徴している。多くの学校で参考になる取り組みがなされている学校である。

(深澤 孝之)

(3) 愛媛県立川之石高等学校の取り組み

川之石高校は、普通科と農業科を併せ持つ総合高校から、多様化する生徒の実態に対応するため1996年(平成8年)に総合学科高校として再スタートした。その歴史は古く、1914年(大正3年)に創立された「伊方実践農業学校」と、1916年(大正5年)に創立された「川之石実践女学校」が母体となり、1948年(昭和23年)に現在の校名である愛媛県立川之石高等学校に改称された。生徒数は各学年3クラス規模で約120名、全校生徒およそ360人である。女子が234名、男子が112名(平成23年度)と女子の在籍者数が多い。人文国際、自然科学、生物生産、スポーツ科学、情報ビジネス、福祉サービスの6つの系列をおいている。教育課程の枠組みを図2-3-5に示す。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年次	国語総合			世界史A		数学Ⅰ		数学A		理科総合A		体育		保健		音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ		家庭総合		情報A		産社		英語Ⅰ			オーラルⅠ			
2年次	H群			I群		J群		K・T群				L群		体育		保健	地歴選択	現代社会	理科選択	家庭総合	総合Ⅰ	J・J②・I群								
3年次	M群		N群		P群		R群				S群		U群		体育		総合Ⅱ													
	生徒全員が履修する科目										自分で選択して履修する科目群										科目選択の方法を学ぶ科目									

図2-3-5 川之石高校の教育課程

川之石高校の特徴として、入学前における総合学科に対する意識や理解は必ずしも高くはないが、入学後に行う科目選択や学校生活に対する満足度の高い生徒が多いということがアンケート調査の結果明らかとなった。これは、学校全体で科目選択指導に力点をおいていることが影響を与えていると考えられる。川之石高校では、必修科目および原則履修科目以外についてはすべて選択科目となっている。2年次の履修計画作成は1年次に、3年次の履修計画作成は2年次に行っている。1年次では、当然3年次まで見据えた科目選択を行わせるが、2年次で、はじめて自己で選択した科目を履修がはじまり、そしてより将来の希望や進路が明確化してくる2年次後半において、再度3年次における履修計画作成することができる。表2-3-17に川之石高校における科目選択のスケジュールを示した。

履修計画の作成にあたっては、担任や各教科担当者との面談、産社での様々な活動(産社に関しては後述)だけではなく、保護者向けの科目選択説明会(3年前から実施)を10月中旬に行う。また、12月に科目選択検討会が行われる。これは、クラス担任・年次主任・教務主任・進学及び就職担当教員・各科主任等約20名のメンバーで構成される検討会で、生徒全員の履修計画の検討を行い、必要に応じて修正案を提示するものである。その後、三者面談で検討会での内容を伝え、担任・保護者・生徒で最終的な履修計画を検討を行う。

このように学校側から科目選択のための様々な機会が提供されているが、川之石高校では、科目選択の最終決定者は生徒本人で有るという理念を大切にしている。そのことが、生徒の科目選択に対する満足度と、自己で選択したという自覚を高めていると考えられる。

表 2-3-17 川之石高校における科目選択スケジュール

1 年次		2 年次	
9 月 8 日 (木)	科目選択ガイダンス・シラバス差し替え	9 月 9 日 (金)	科目選択オリエンテーション・シラバス差し替え
9 月 15 日 (木) ~	科目説明・系列体験授業	9 月 16 日 (金)	進路別 各教科担当者説明
10 月 27 日 (木)	履修計画の説明・資料配付	9 月 30 日 (金)	進路別 各教科担当者説明
	素案作成	9 月下旬 ~	担任・各教科担当者との面談
11 月 10 日 (木)	各教科担当者説明・履修計画作成	10 月 21 日 (金)	履修計画の作成
	担任との面談・履修計画仮提出	10 月 28 日 (金)	履修計画の作成・提出
12 月 1 日 (木)	科目選択検討会	12 月 9 日 (金)	第 1 回履修計画の変更・提出
12 月中旬 ~	三者面談 (生徒・保護者・担任)	12 月中旬 ~	三者面談 (生徒・保護者・担任)
1 月 12 日 (木)	履修計画変更届提出日	1 月 10 日 (火)	第 2 回 (最終) 履修計画の変更・提出
1 月 31 日 (火)	履修計画最終決定		

※平成 23 年度川之石高校保護者むけ科目選択説明会資料より作成

教育課程においては 3 年間を見据えたキャリア教育を行うため、1 年次「産業社会と人間」、2 年次「総合 I」、3 年次「総合 II」の 3 つが置かれている。このなかでも特筆されるのは、これまでの学校の歴史も活かした、学校内の資源の活用と、地域と連携した様々な取り組みだ。

産社においては、表 2-3-18 のように、地元、卒業生、校内施設等を用いた様々な自己理解や職業理解に関する指導が行われる。将来が不透明な社会状況に加え、実体験に乏しい中学校段階で自己の将来を明確に考え高校を選択することはなかなか難しい。川之石高校においても、明確な進路希望をもって入学してきた生徒より、総合学科で様々なことを知り体験する中で、自己の内面と真剣に向き合い、自己の将来を考える生徒が多いとのことである。

表 2-3-18 産社を中心とした自己理解や職業理解に関する指導

4 月	社会人講話 (地元で活躍中の社会人の体験談から生き方や考え方を学ぶ)
5 月	職種研究および発表会 (グループ別の職種調査と発表会)
	農業体験① (サツマイモ定植)
6 月	地元職場見学 (地元の職場および体験実習)
7 月	地元職場見学発表会 (地元職場見学の報告会)
8 月	先輩は語る (卒業生を招いた体験発表および意見交換)
10 月	農業体験② (サツマイモ収穫)
	上級学校見学 (進路希望別に大学・短大・専門学校の見学および授業体験)
12 月	農業体験③ (地元農家での一泊農業体験)

地元とのつながりや行事を円滑に行うため、産社の運営は年次任せではなく、総合学科（産社の計画などを専門に担当する科で、同じ教員が何年か継続して担当する。このため年度が替わってもうまく引き継ぎが行われる）の教員と1年次が協力して行っている。産社における企業訪問や農家訪問以外にも、ブラスバンド部の地元での講演、校内の施設を利用した「草花」の授業の履修から、フラワーアレンジメントに関する卒業研究につながり、地元美容室や衣装店の協力を得た、ブライダルショーも行われている。このような様々な活動のなかで、学校に関する地域での理解が高まり、「あの学校に行きたい。」という前向きな中学生の受験が増加し、学校で良いサイクルが生まれているとのことである。

当校を訪問して強く感じたことは、教職員と生徒間の関係が近く、地域の理解もあり、相互の信頼関係が成り立ち、充実した学校運営がなされているという点だ。総合学科は手間がかかり多忙なため、勤務を希望する教員が少ないという学校がある一方、川之石高校では、他校への転勤を希望する先生方は少ないということである。また、普通科と農業科時代は、生徒同士が互いの違いを認め合うことが出来ず、指導が難しい面もあったそうであるが、総合学科になってからは、生徒同士が学びの多様性や個性の違いを認めあえるようになったとのことである。また、保護者からの評価も高まってきているとのことである。志願者数も募集定員以上の志願者が集まっている（過去3年間）。

川之石高校の先生から、「うちの生徒は、嬉しそうに職員室に来るんですよ。」というお話を伺った。また、同じ先生から、「川之石高校に入学してくる生徒のほとんどは、地元の八幡浜市や伊方町からで、その気質は概して素直でのんびりとしているのですが、総合学科に入学後、自己の学びを本当に選択できることに気づき自覚が芽生え、自己が選択したことによる自信が頑張りにつながっているんですよ。」ということも伺った。

地元の素直で純朴な中学生が、地元の高校で総合学科と熱心な先生と出会い、自分の生き方や将来を真剣に考えはじめ3年間で大きく成長し卒業していく。総合学科の理念と理想を大切に、よりよい学校の在り方を常に追求している学校、それが川之石高等学校であった。

表 2-3-19 川之石高校の活動から見えてくる総合学科運営のポイント

○赴任当初の研修や、先輩教員との活動のなかで、新任・転任教職員の、総合学科に関する理解ができています。
○生徒全員の科目選択結果を複数の教員で検討する委員会が設けられています。
○総合学科や科目選択に関する保護者説明会が行われています。
○三者面談や個別面談などで、保護者・生徒との信頼関係を作り、納得した科目選択を行っています。
○地域との強い連携から、学校への信頼感も高まり、相互にとって有益な関係が成り立っています。
○産社を1年次だけではなく、複数年にわたり産社を担当する教員を含んだ産社委員会で運営し、ノウハウや地域連携が単年度で終わらないよう引継ぎがうまくなされています。

(建元 喜寿)

2-4 生徒の意識調査からみた総合学科の現状と課題

(1) 総合学科への入学にあたって

総合学科に入学してくる生徒のうち、総合学科に入学したいという希望をもって入学する生徒は5割に満たないという結果となった。この数字を2つの側面から評価してみる。一つは「総合学科の学びに対して意欲の高い生徒を多く入学させる」という視点である。総合学科への入学を希望した生徒は設問15「総合学科を選択したことについて、いまのあなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選んで下さい。」に対して、表2-4-1の通り肯定的回答を示す生徒が多い。(本項においても「とても満足している」「やや満足している」「あまり満足していない」「全く満足していない」の4件の回答を「とても満足している」「やや満足している」を肯定的回答、「あまり満足していない」「全く満足していない」を否定的回答としてまとめている。以下同じ。)

表 2-4-1 入学時の希望と総合学科の学びに対する満足度

	総合学科希望者	その他	合計
肯定的回答	1521 94.6%	1462 79.3%	2983
否定的回答	86 5.4%	382 20.7%	468
合計	1607	1844	3451

総合学科に限ったことではなく高校進学に対して自らの意志をはっきり持っている生徒は入学後の学びも意欲を持って臨むことが期待できる。このように意欲の高い生徒を入学させるのは学校を望ましい方向に発展させて行くために大変重要なことであろう。

では総合学科にとって意欲の高い生徒を入学させるために今求められているものとは何だろうか。最も重要なことは総合学科に対する理解の浸透を図ることである。総合学科が平成6年4月に開設されて今年度で18年が経過するが、社会の中で総合学科に対する理解が進んでいるとはいえない。今回の調査結果をみても高校入学時において生徒は「総合学科とは選択科目が多く、自由に時間割が作れること」という理解にとどまっていることがわかる。多くの学校の生徒募集は「総合学科は選択科目が多くあって、自分の進路にもとづき自分で時間割を作ることができます」というキャッチフレーズを中心に行われてきた。当然これからもそれは総合学科の中心的な特徴であるが、総合選択制や単位制といった選択科目を学校の目玉として上げる学校が増えている現状において総合学科の特徴は伝わらなくなってきている。中学生やその保護者、中学校教員が総合学科は選択科目が多いという理解にとどまるならば、総合学科の魅力は相対的に低下していくと予測できる。

生徒や保護者に対して学校説明会や入試説明会などの短い時間に総合学科について理解してもらうことは難しい。また多くの学校では入学案内を配布する程度の中学校訪問はできても、中学の教員に対して総合学科に対する丁寧な説明まではできていないのが現状であろう。説明を受ける中学校の教員もどちらかといえば訪問されるのを嫌う傾向にある。このような現状の打開策として最も有効なのはホームページの活用である。多くの家庭に

もインターネット環境が普及してきている状況にあって、インターネットを利用した情報発信は大変有効であり、必須である。すでにホームページの充実、閲覧数の増加に取り組んでいる学校も多い。今回調査に協力いただいた塩尻志学館高校ではブログを原則として毎日更新したり、生徒・保護者向けの総合学科通信「CAREER」を一般にも閲覧できるようにしたりすることで学校についての情報をできるだけ多く発信している。このほかにも学校評価など公開できる情報はできるだけホームページで公開するという方針であった。また中学校訪問については卒業生の活躍の様子や、学校の実績を伝える資料などを用意し中学校の教員に学校の魅力を伝える工夫をしているということである。

このような各学校独自の取り組みに加えて、行政としても総合学科をはじめ多様化する高校のしくみについて理解を広める取り組みが必要であろう。例えば中学校の教員に対して行われる進路指導などの研修会の際にそのような内容を取り扱うことは有効であると考えられる。また教員養成段階や教員免許更新講習を開講する大学などに対してもそれに関連する内容の取り扱いを要望することなど現在の枠組みの中で実施できることは多いはずである。これらの取り組みは単に総合学科のためだけではなく、中学生が高校を選ぶ場合においてその判断材料を多く提供できる環境を整えようとするものである。

今日の社会的状況をみれば、一朝一夕に総合学科への理解が進まないことは容易に想像できる。だからこそ全国の総合学科高校がそれぞれの学校の特徴や実績を地道にできるだけ多く発信していくことがまず求められる。その積み重ねが社会的な理解を形成する最も確実な方法であり、ひいては総合学科を志望する生徒の増加につながるものと考えられる。

次に「高校への進学に対してははっきりとした希望のない生徒を受け入れる」という視点で評価する。前述の通り、学校としてはできれば意欲の高い生徒に入学してもらいたいものである。しかし、現実には調査結果が示すようにおよそ半数は総合学科を積極的に選択していない生徒達である。総合学科の理念に照らせば、この生徒達に対する教育こそ総合学科に求められているものではないかと考えることができる。では、入学時に総合学科を希望していない生徒が3年間の学びを通してどのように変化したかアンケートから読み取れることについて考えてみる。図2-4-1に設問4「総合学科の高校に入学を決めたとき、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。」の回答結果を示す。「総合学科に入りたかった」の次に多いのが「どの学科でも良かった」でおよそ35%である。この35%の生徒について設問16.6～設問16.8の回答結果を図2-4-2に示す。ここでは設問5「「産業社会と人間」について、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。」において、下位項目Q5.1からQ5.5までですべて「とてもそう思う」または「ややそう思う」と回答した「産業社会と人間」に充実感を持っている肯定的な集団（以下、産社充実群）と1つでも「全くそう思わない」または「あまりそう思わない」と回答した「産業社会と人間」に必ずしも充実感を持っていない集団（以下、産社非充実群）に分けて比較した。あわせて図2-4-3には設問4で「総合学科に入りたかった」と回答した生徒の設問16.6～16.8の回答結果を示す。

Q4:総合学科の高校に入学を決めたとき、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。(SA)

	回答数	%
全体	3703	100.0
1 どの学科でもよかった	1312	35.4
2 専門学科に入りたかった	280	7.0
3 普通科に入りたかった	400	10.8
4 総合学科に入りたかった	1697	45.8
無回答	34	0.9

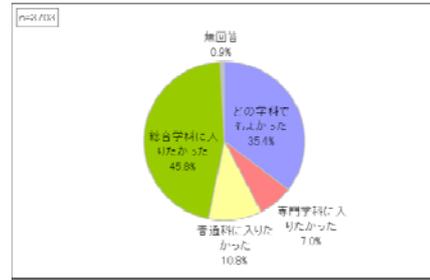


図 2-4-1 高校入学時の進路希望

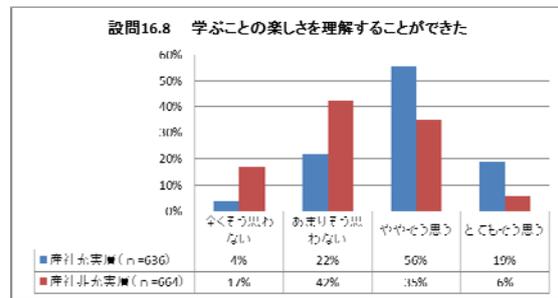
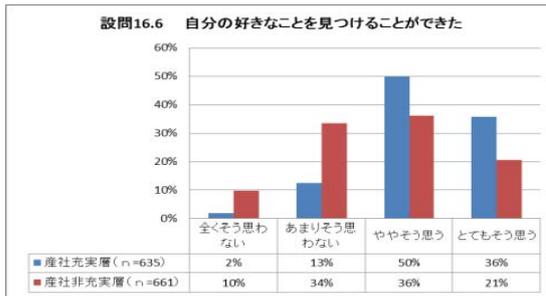


図 2-4-2 設問 16.6～16.8 の回答結果
(設問 4 で「どの学科でもよかった」と回答した生徒)

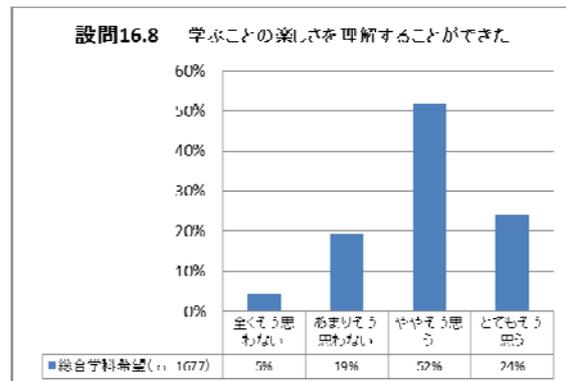
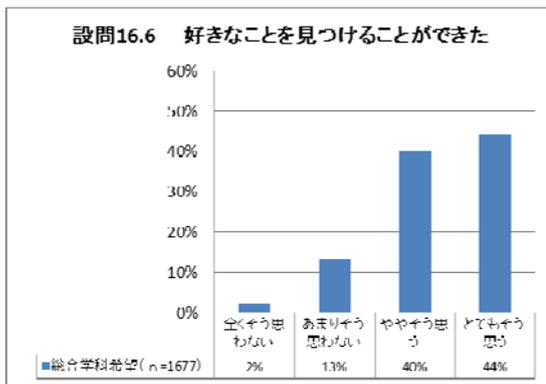
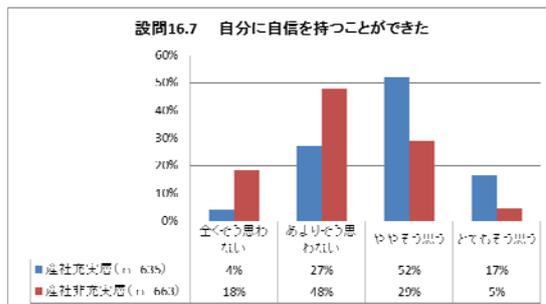
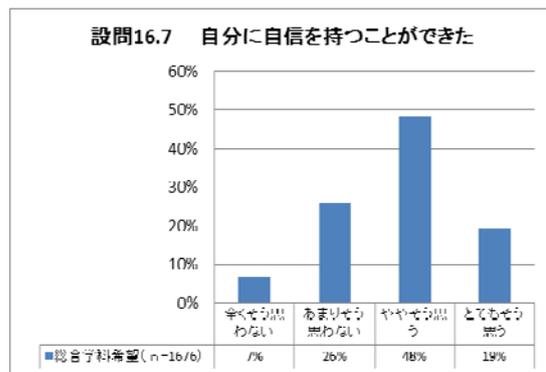


図 2-4-3 設問 16.6～16.8 の回答結果
(設問 4 で「総合学科に入りたかった」と回答した生徒)



設問 16 は総合学科での学びで生徒自身がどのように自分の成長を感じているかを問う項目であり、特に設問 16.6～16.8 は総合学科の学びを通して生徒に最も獲得して欲しい力である。総合学科への入学を希望している生徒は各設問において、「とてもそう思う」および「ややそう思う」の肯定的回答はそれぞれ 84%、67%、76%である。それに対して、設問 4 で「どの学科でもよかった」と回答した生徒のうち、産社充実群について同じように肯定的回答の結果を見るとそれぞれ 86%、79%、75%という結果となった。この結果は入学時に高校進学に対してははっきりとした意欲がなくても、「産業社会と人間」の授業を充実して受けることができれば、意欲を持って入学してくる生徒と変わらないかそれ以上の学習成果をあげることができることを示している。逆に「産業社会と人間」の授業に対して充実感を持つことができないと、学習の成果をあげることができない生徒が多いということもわかる。これは入学時の進路意識に関わらず、2-2 で示されたように「産業社会と人間」の充実が総合学科での学びを大きく左右する結果になる。

ここで重要なことは、総合学科には生徒の意欲や自信、学ぶことに対する気持ちを向上させる機能が備わっているということが示されたことである。入学時にはっきりとした希望や学びに対する強い意欲がなくても、総合学科の学びがその気持ちを変化させているのである。残念ながら総合学科に入学した全員がそうなっている訳ではない。しかし今回の結果は創設当時総合学科に期待されていた目的に対して一定の成果を示すことができるものであろう。また「産業社会と人間」の役割の大きさもあらためて認識させられる結果でもある。

(2) 「産業社会と人間」および科目選択について

「産業社会と人間」は前項でも述べたように、総合学科の学びにとってその根幹となる極めて重要な役割を担っている科目といえる。今回調査に協力いただいた愛媛県立川之石高校は「産業社会と人間」の授業実践において高い成果をあげている。「川之石高校に入学してくる生徒のほとんどは、地元の八幡浜市や伊方町からで、その気質は概して素直でのんびりとしているのですが、総合学科に入学後、自己の学びを本当に選択できることに気づき自覚が芽生え、自己が選択したことによる自信が頑張りにつながっているんですよ。」と訪問の報告にあるように、「産業社会と人間」の成果と生徒の気質、学校の置かれている地域性への言及があった。以前から「産業社会と人間」がうまく機能するかしなにかに、地域による違いがあるのではないかと、つまり素直で素朴な生徒集団となりやすい地方の方が都市部と比較したときに「産業社会と人間」の成果は上がりやすいのではないかとこの指摘がなされてきた。『これは生徒の気質という要素だけでなく、地方の方が親しい大人の生き方を目にする機会が多いということも理由としてあげられる。生徒は自分で得た多くの情報を下に自らの進路意識を形成していくがその過程において、身近な大人の生き方ほどリアルな情報は他にない。詳しいデータは示さないが、この点について前述の「産業社会と人間」の産社充実群と産社非充実群の人数の割合を地域ごとに比較したところ、地方の方が都市部より産社充実群の人数が多いことがわかった。地方と都市部との区分の仕方によって結果は異なるが、人数の割合がおおよそ 2 倍程度の開きとなる場合もあった。』

「産業社会と人間」の授業に生徒が充実感を持って取り組むことができるかどうかはその

後の生徒の学び方を左右するだけに、都市部での総合学科運営の難しさを示す結果となった。

「産業社会と人間」の授業内容として生徒が最も興味を持つのが科目選択である。また生徒が総合学科の特徴として最も意識していることが科目選択でもある（設問 2）。「産業社会と人間」の授業が自己理解や職業理解、社会に対する認識や人間関係、自分の将来といった比較的抽象的な内容、項目が多い中であって科目選択は生徒に直接的にリアルな現実を突きつけることのできる大変貴重な機会でもある。設問 17「総合学科高校の特徴的なしくみ（「産業社会と人間」の授業や科目選択、系列など）について、改善した方がよいと思うことを書いてください。」に科目選択に対する意見が多く書かれているのは科目選択が生徒にとってリアルなものであからこそである。このような生徒にとってリアルな現実である科目選択を上手に利用することで生徒の授業に対する姿勢を望ましい方向に導くことができる。自分を見つめることや働くことについて考えることが決断のために必要だという意識を持たせることができれば、「産業社会と人間」の抽象的な学習内容も生徒はリアルな気持ちで臨むことができるであろう。今一度、設問 17 の科目選択に関する自由記述のなかからいくつか気になる意見を取り上げてみる（生徒の記述をそのまま記載）。

「選択したくてもちゅうせんで外れてしまって、自分に全く関係のない授業をとらざるをえなくなるところは改善した方がよい。」

「科目を選択したくても人員不足などで開講されないことがあるので何か対策があれば…」

「人数が少ないと授業が開講しないこと」

この 3 つの意見を記述した生徒はいずれも設問 16.2「興味関心に応じた時間割をつくることができた」に対して肯定的な回答をしている生徒であり、設問 4 において総合学科に入学したかったと回答している生徒である。履修したい科目があったが学校の都合で開講されず、それでも前向きに自分の科目選択を進めようとしたことがうかがえる。施設設備や教員の持ち時間等の問題もあり、人数の制限や開講できない場合もあるかもしれないが、生徒の期待に応えるためにも抽選等による履修の制限は避けるべきである。また科目選択に関する記述のうち特に科目選択ガイダンスの充実を求める意見が多かったことも取り上げておきたい。

科目選択に関して生徒が最も参考としているのが「担任の先生の話」（81.1%：「とても参考にした」、「やや参考にした」をあわせて集計）という結果である。また、設問 10「高校卒業後の進路を考える上で、つぎの項目はどの程度、影響があったと思いますか。」に対して「学校の先生」と回答したのは 73%（「とても影響があった」と「やや影響があった」をあわせて集計）である。東大調査で「学校の先生」と回答したのは 38%にとどまる。これらの結果は総合学科の多くの生徒が最も近い大人である学校の教員との対話を中心としながら、自らの進路展望（科目選択や卒業後の進路など）を形成していることを示しているといえよう。このような総合学科に特徴的な生徒の進路形成過程を考えると塩尻志学館高校で実施されている「サポーターズシステム」は大変有効な支援体制といえる。生徒と教員の信頼関係構築は総合学科の如何を問わず求められるが、総合学科においては入学後す

ぐに始まる「産業社会と人間」などの授業を通して生徒との信頼関係をいち早く築くことが必要であろう。こうした信頼関係を構築していく上で先に述べたような生徒の期待に反するような科目選択のシステムは是非とも改善しておきたい。

(3) 系列と科目選択

総合学科では原則として必修科目以外は選択科目とすることが基本である。しかし、多くの学校では学校設定の必修科目を設けて履修させている。また総合学科は積み重ねの科目を除いて年次に関係なく履修できることも特徴の一つであるが、これについても年次ごとの区分を設けて履修させている学校も多い。本来は選択履修する上での指針としての役割に過ぎない科目群(系列)についても、系列を選択することを科目選択の基本とする「系列選択型」の科目選択を採用している学校も増えてきている。総合学科も18年が経過し、選択科目の置き方や履修のさせ方について各学校試行錯誤しながら変化してきた。系列による縛りを設けるのか、あくまでも系列は科目選択の指針であるのかという点で総合学科の科目選択のさせ方は2分される。この点について設問17の自由記述に書かれた回答をいくつかあげてみる。

「系列にとらわれずに、自分の興味のある授業を選択できるようにしてほしい」

「系列ごとの区分はいらないと思う」

「一度、系列を決めたら変えられないところ。総合とはいうものの、結局は専門が4つあるだけなところ」

このように、系列選択型の科目選択に対する意見が多く見られた。系列選択型の科目選択を採用する大きな理由は2つある。一つは特に大学進学を意識した科目選択をさせたい場合、受験に必要な科目を履修していないことを事前に予防しようというものである。もう一つは、特に専門科目において学習の系統性が失われることを防ぐことである。他にも講座定員の数を一定程度におさめたいとか、安易な科目選択に走らせないためなど学校によって様々である。

今回調査した学校のうち系列選択型を採用しているある学校について、設問16.2「自分の興味関心に応じた時間割をつくることができた」の結果は肯定的回答(「とてもそう思う」、「ややそう思う」)が81.4%と全体の結果と(76.6%)とほとんど変わらない結果であった。これは生徒が満足できる科目選択を行うためには科目選択の方法やしきみが問題なのではなく、むしろ「産業社会と人間」の授業をはじめ科目選択にいたるまでのガイダンスなどがより重要であることが示唆される結果である。ただ、「系列にとらわれずに、科目選択したい」、「結局は専門が4つあるだけ」との指摘もあることを十分意識し、より自由度の高い科目選択が実現できるよう配慮することが求められる。

(4) 大学進学と科目選択

生徒の進路設計が高度になってくれば、それにとまって大学進学に対する希望も高ま

るのはごく自然なことである。一方科目選択において大学進学に備えるための普通科目の履修を優先するとすることによって総合学科の特徴である専門科目と普通科目を総合的に学ぶという機会が制限されることとなる。このような状況は生徒も感じており、設問 17にもそのような記述がみられる。逆に大学進学したいのに科目履修上の制限から普通科目が十分履修できないという不満の記述もある。大学入試における競争の緩和とも相まって大学進学希望者が増える傾向にあり、選択科目の配置や専門科目と普通科目の履修のさせ方について悩みを抱える学校も多い。この傾向は学校によって差はあるにしろ、今後増えていくことが予想される。こうした状況に対応するためには各学校が生徒のニーズを十分に把握しながら機動性を持って柔軟に選択科目の見直しなどを行うことが必要である。

(5) 総合学科の教員として

今回調査協力をお願いした塩尻志学館高校および愛媛川之石高校はともに総合学科の教育実践において大きな成果をあげている。その先生方の思いに共通するものは「総合学科ができたときの理念を大切にす」というものである。進学・学力重視の方向に社会が振られても総合学科は総合学科らしくというぶれない気持ちを感じることができた。出口教育ではない人の教育、進学に対応するときにも工夫しながら理念を守ること、結果ではなくプロセスを大切に、そして総合学科の取り組みはすべての高校生にとって必要なものであるという迷いのない姿勢、それぞれの先生がそれぞれの思いを持って生徒と真正面から向き合っている姿に深い感銘を受けた。

このような志ある多くの先生が総合学科を支えている。教育行政においても総合学科の運営を先生方の熱意に任せることなく、より充実した支援を期待したい。

(6) 総合学科とそこで学ぶ生徒の姿

この調査の目的は「個性尊重・キャリア教育重視の理念の下に開設された総合学科に対して現在在籍する生徒はどのように感じているかを明らかにすること」であった。アンケート結果から見えてきたのは、「産業社会と人間」、科目選択、様々な体験活動など総合学科ならではの活動に対して多くの生徒は充実感を持って取り組んでいる姿である。また、総合学科の実践は高校生のキャリア意識形成にとって極めて重要な役割を果たしていることを知ることができた。このような結果は総合学科の教育力を示す客観的な根拠となり得るものと考えられる。

今回の調査にあたって約 4000 人の生徒の皆さんに協力をいただいた。それぞれの回答には生徒それぞれの高等学校における学びが反映されている。アンケートによる調査は集団としての傾向を知ることではできても一人一人の声を拾うことができない。今回評価した数字の向こう側には一人一人の生徒がいることを意識しなければならない。

本項の最後にある 1 年次の生徒が書いたライフプランを紹介する。これまで項目ごとに見てきたアンケート結果を一つにつなげて評価する材料としてもらいたい。自己理解から科目選択にいたった過程、将来への希望などが大変良く表現された文章である。総合学科の特徴やしぐみを説明するのは難しいが、この生徒のライフプランには総合学科の学びに

求められるものが表現されている。総合学科に初めて赴任した先生方に読んでいただければ、総合学科は何を目指さなければならないのか理解いただけるはずである。

<参考資料> T高校 1年次生Mさんが書いた「ライフプラン」

「私を追求する」

私は超個人主義の人間である。中学校の頃ぐらいから気づきはじめてきたことだが、私には自分には厳しく、他人は関係ないという意識が強くある。つまり常に自分と戦っているという感じなのだ。

ついに履修計画を作り終えた。これは自らの手で自らの考えで作上げたものである。だからこそ、私の中の自分との戦いは、さらに激化するように思われる。そんな私の中のいわば革命のような履修計画の作成には、これまでで自分の人生のことを最もよく考えた高校1年はじめの約153日間があったのである。

この学校に入学して何ヶ月かは、初めて見るもの、初めて体験するものが目白押しだった。コミュニケーションキャンプや企業での体験実習などがそれである。それは目まぐるしい速さで過ぎ去った日々だった。しかしそれほど過密スケジュールの中で、いろいろなことをしていたおかげで、自分の核となる部分が見えてきた。それはきっと、様々な経験が立て続けにあることで、今回の体験とそれまでの体験を比べ、自分の適性を探ることができたからだ。その結果、まず気がついたことは、どんなに忙しい日々の中でも、私の中で切り離せないものとして、音楽があるということだ。私は、3歳の頃からほとんど絶え間なく、音楽と関わってきた。だから生活の一部のようになっていて、特に意識したことはなかったのだが、私の中にこれだけ根付いているものなのだから、自分の将来の職業にも結びつけていきたいと思った。そして、私の中にあった『商業に興味がある』というただ漠然とした気持ちは、商業の中でも、情報処理の専門家などの技術者になるのではなく、パソコンなどを仕事のツールとして使用しながら、自分の体や言葉をフル活用し、活動的に仕事をすることを目標とするもの変わった。

そういった自分の将来に対する考えを持って、履修計画を作り始めた。『これだけ将来のことを考えてあれば、迷いもなかる。』などと考えていた。しかしそれはほとんど勘違いだった。例えば芸人になりたいとしようがなく師匠の芸人に弟子入りする人もいれば、大学に入学し、気の合う友人とコンビを組み、芸人の道へ進む人もいる。つまり、もしも自分のなりたい職業が1つに決まっていたとしても、その職業に就くための進路というのは必ずしも1つではないということだ。私はこれという1つの職業に今から固める気もないので、高校卒業後の進路というと、非常にたくさんの道が考えられるのである。おぼろげながらわかっていることは、高校卒業してすぐ、私が憧れているような世界には飛び込めないということだった。私は悩んだ。大学や専門学校を中心に資料を取り寄せ、深く研究した。そんな中、私の中で親という存在がクローズアップされた。私はあまり親の言うことをきく方ではなかったし、親も私にあまりいろいろ言う方ではなかった。だから今まではほとんど自分の考えで自分のことを勝手に決めてきたが、今回の履修計画作りでは、親の助言が私の迷いをやわらげてくれた。そして親を人生の先輩として見ることもあった。そういった家族との関わりや幾度となく繰り返された自分への問いかけの中で、履修計画はなんとか完成にいった。これは今までの夏休みの宿題の中で、自分の人生すら左右する非常に難しいものだった。

私が総合学科に入学した理由—それはわたしの性に合っている、ということからだった。自分で時間割を作り、自分の目標に向かってただ進んでいく。生徒それぞれ学んでいることが違うから、その評価も個人個人に対して行われる。そんなところが個人主義の私にはピッタリだと思った。

わかっていたことだが始まってしまった。これからは自分の計画を基に学んでいくのである。私はこの先の自分との戦いに打ち勝っていきたい。私は私の健闘を祈っている。

(深澤 孝之)

総合学科の学びに関するアンケート調査

お願い

この調査は、文部科学省初等中等教育局の実施する「高等学校教育改革の推進に関する調査研究事業」における委託研究「総合学科の在り方に関する調査研究」のための基礎資料として使わせていただくことを目的としています。

ご回答いただきました調査内容は統計的に処理されますので、回答者ご自身にご迷惑を及ぼすようなことは決してございません。ありのままにご回答くださいますようお願い申し上げます。

高等学校総合学科検証調査研究会

研究代表者・東京女子体育大学教授（前筑波大学附属坂戸高等学校長） 服部 次郎

■以降の質問項目について、あてはまる番号を○で囲んで下さい。また、空欄には記述をして下さい。

・あなたの性別について、あてはまる番号を選び、○で囲んで下さい。

1. 男性	2. 女性
-------	-------

高等学校の選択について ※高等学校を選択したときの気持ちを思い出して、お答え下さい。

1. 高等学校を選択するとき、「総合学科の高校」がどのような学校であるか、

どの程度、理解していたと思いますか。

あてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。

4. 十分理解していた	3. やや理解していた	2. あまり理解していなかった	1. 全く理解していなかった
-------------	-------------	-----------------	----------------

2. 高等学校を選択するとき、「総合学科の高校」の特徴について、あなたはどのようなイメージを持っていましたか。

あてはまる番号をすべて選び、○で囲んで下さい。（複数回答可）

1. 個に応じた指導をしてくれる
2. 自分の生き方を考える学習ができる
3. 多くの選択科目が開設されている
4. 興味関心を深められる
5. 普通科目と専門科目をバランス良く学べる
6. 単位制である
7. その他()

3. 高等学校を選択するとき、「総合学科の高校であること」をどの程度、意識しましたか。

あてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。

4. 強く意識した	3. やや意識した	2. あまり意識しなかった	1. 全く意識しなかった
-----------	-----------	---------------	--------------

4. 総合学科の高校に入学を決めたとき、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。

4. 総合学科に入りたかった	3. 普通科に入りたかった	2. 専門学科に入りたかった	1. どの学科でもよかった
----------------	---------------	----------------	---------------

「産業社会と人間」における学びについて

5. 「産業社会と人間」について、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

4. とても そう思う	3. やや そう思う	2. あまり そう思わ ない	1. 全くそ う思わ ない
----------------	---------------	----------------------	---------------------

①入学時よりも、自分自身について見つめ直すことができた

4 3 2 1

②入学時よりも、これからの生き方を考えることができた

4 3 2 1

③入学時よりも、社会の現実や現状を新たに知ることができた

4 3 2 1

④入学時よりも、働くことに対して意欲がわいた

4 3 2 1

⑤入学時よりも、社会の出来事に対して、問題意識を持つようになった

4 3 2 1

科目選択について

6. 科目を選択するとき、科目選択のためのガイダンスはどの程度、充実していましたか。

あてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。

4. とても 充実していた	3. やや 充実していた	2. あまり 充実していなかった	1. 全く 充実していなかった
------------------	-----------------	---------------------	--------------------

7. 科目を選択するとき、つぎの項目をどの程度、参考にしましたか。

あてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

4. とても参考にした	3. やや参考にした	2. あまり 参考にしなかった	1. 全く 参考にしなかった
-------------	------------	--------------------	-------------------

①ガイダンスブック（シラバス）	4	3	2	1
②担任の先生の話	4	3	2	1
③保護者の話	4	3	2	1
④友人の話	4	3	2	1
⑤先輩の話	4	3	2	1
⑥産社で行った体験活動	4	3	2	1
⑦上級学校訪問	4	3	2	1
⑧進路説明会	4	3	2	1
⑨講演会	4	3	2	1

8. あなた自身が行った科目選択について、どの程度、満足していますか。

あてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。

4. とても 満足している	3. やや 満足している	2. あまり 満足していない	1. 全く 満足していない
------------------	-----------------	-------------------	------------------

高等学校卒業後の進路について

9. 高校卒業後の進路を決める上で、つぎの項目をどの程度、考慮しましたか。

あてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

4. とても 考慮した	3. やや 考慮した	2. あまり 考慮しなかった	1. 全く 考慮しなかった
----------------	---------------	-------------------	------------------

①学校の成績・進学先の入学試験	4	3	2	1
②家庭の経済的な状況	4	3	2	1
③そのほかの家庭の事情	4	3	2	1
④近くに適当な進学先があるかどうか	4	3	2	1
⑤自分の志望がはっきりしているかどうか	4	3	2	1

10. 高校卒業後の進路を考える上で、つぎの項目をどの程度、影響があったと思いますか。

あてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

4. とても 影響があった	3. やや 影響があった	2. あまり 影響はなかった	1. 全く 影響はなかった
------------------	-----------------	-------------------	------------------

①家族	4	3	2	1
②友だち	4	3	2	1
③「産業社会と人間」などの授業	4	3	2	1
④学校の進路指導	4	3	2	1
⑤学校の先生	4	3	2	1
⑥塾や予備校の先生	4	3	2	1
⑦就職ガイドブックなど	4	3	2	1
⑧企業訪問・職場見学など	4	3	2	1
⑨学校のガイドブックなど	4	3	2	1

■11～13の設問項目は該当する人のみ、14～18の設問項目は、全員、お答え下さい。

1 1. 進学を希望する人のみ、お答え下さい。

進学する（進学したい）と考えた理由として、つぎの項目はほどの程度、あてはまりますか。

あてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

	4. とても あてはまる	3. やや あてはまる	2. あまり あてはまらない	1. 全く あてはまらない
①進学するのは当然だと思っていたから	4	3	2	1
②高卒ではよい就職先が見つからないから	4	3	2	1
③勉強してみたい分野が見つかったから	4	3	2	1
④職業に必要な資格を取りたいから	4	3	2	1
⑤学生生活を楽しみたいから	4	3	2	1
⑥まわりのみんなが進学するから	4	3	2	1
⑦進学すれば、自分のやりたいことがみつかると思うから	4	3	2	1
⑧幅広く多くの人々と知り合うことができるから	4	3	2	1
⑨家族や学校の先生がすすめるから	4	3	2	1
⑩まだ就職したくないから	4	3	2	1

1 2. 進学を希望する人のみ、お答え下さい。

第一志望を決めるときに、つぎの項目はほどの程度、重要でしたか。

あてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

	4. とても 重要である	3. やや 重要である	2. あまり 重要でない	1. 全く 重要でない
①自宅から通える	4	3	2	1
②授業料や生活費を負担できる	4	3	2	1
③自分の成績にあっている	4	3	2	1
④自分のつきたい職業に直結している	4	3	2	1
⑤校風や社会からの評価	4	3	2	1
⑥自分の勉強したい専門分野である	4	3	2	1
⑦実用的な知識・技能が身につく	4	3	2	1

1 3. 就職を希望する人のみ、お答え下さい。

あなたが就職を考えた理由として、つぎの項目はほどの程度、あてはまりますか。

あてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

	4. とても あてはまる	3. あてはまる	2. あまり あてはまらない	1. 全く あてはまらない
①仕事をするのが自分に向いていると思うから	4	3	2	1
②早くお金をかせぎたい（経済的に自立したい）から	4	3	2	1
③やりたい仕事があるから	4	3	2	1
④高卒後すぐに就職したほうがよい会社に入れると思うから	4	3	2	1
⑤進学しても得るものが少ないと思うから	4	3	2	1
⑥高卒後すぐに進学しなくても、進学のチャンスはあると思うから	4	3	2	1
⑦家族や学校の先生にすすめられたから	4	3	2	1
⑧進学のための費用が高いから	4	3	2	1
⑨進学したい学校が近くにないから	4	3	2	1
⑩自分の成績ではいきたい学校に進学できそうもないから	4	3	2	1

14. これからの社会について、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

4. 強く そう思う	3. そう思う	2. そうは 思わない	1. 全く 思わない
---------------	---------	----------------	---------------

① 学歴よりも資格が重視されるようになる

4 3 2 1

② 年功序列ではなくなり、本人の能力を重視して
昇進や昇給が行われるようになる

4 3 2 1

③ 仕事よりも家庭や個人の生活を大切にする人が増える

4 3 2 1

④ 学歴をもっていても安定した生活は保障されない

4 3 2 1

⑤ 会社に勤めるよりも、自分で会社を起こす人が増える

4 3 2 1

総合学科について

15. 総合学科を選択したことについて、いまのあなたの気持ちにあてはまる番号を1つ選び、○で囲んで下さい。

4. とても 満足している	3. やや 満足している	2. あまり 満足していない	1. 全く 満足していない
------------------	-----------------	-------------------	------------------

16. これまでの自分自身を振り返って、あなたの気持ちにあてはまる番号を1つずつ選び、○で囲んで下さい。

4. とても そう思う	3. やや そう思う	2. あまり そう思わない	1. 全く そう思わない
----------------	---------------	------------------	-----------------

① 産社などで、自分自身を見つめることができた

4 3 2 1

② 自分の興味関心に応じた時間割をつくることができた

4 3 2 1

③ 普通科目や専門科目を幅広く学ぶことができた

4 3 2 1

④ 様々な体験活動を通じて、幅広い視野を持つことができた

4 3 2 1

⑤ 真剣に、自分の将来と向き合うことができた

4 3 2 1

⑥ 自分の好きなことを見つけることができた

4 3 2 1

⑦ 自分に自信を持つことができた

4 3 2 1

⑧ 学ぶことの楽しさを理解することができた

4 3 2 1

17. 総合学科高校の特徴的なしくみ（「産業社会と人間」の授業や科目選択、系列など）について、改善した方がよいと思うことを書いてください。

18. これまでの高校生活を振り返って、最も印象に残っていること、最も時間を費やしたこと、とても感動したこと、とくに頑張ったことはどんなことですか。いくつでも構いませんので、できるだけ多く教えて下さい。

ありがとうございました。